

農に生きる

Challenge to My Dreams



調整した液肥による適切な管理



マルチを隙間なく敷き湿度を抑える

ナス生産者

かとう たけし
加藤 豪さん(49)

函南町仁田在住。41歳で新規就農し、農業を始めて8年目。家族やパート従業員と共に約30アールのハウスでナスを栽培。現在、三島函南茄子組合の組合長を務める。



単為結果品種で作業の効率化、高品質化へ

試行錯誤が結果につながる

函南町でナスをハウス促成栽培する加藤さんは、元中学校教員の経歴を持ちます。以前は沼津市で勤めていましたが、41歳の頃に一念発起して新規就農し、本年度で8年目を迎えます。

「体を動かすことが好きで、そういった仕事に就きたいと思っていました。函南町で新規就農の募集があったため、初めは通いながら作業をしていた」と就農したきっかけを話します。

現在はナスの単為結果品種「PC鶴丸」を栽培。単為結果品種とは授粉しなくても実を付けるもので、茄子組合として試験導入し

て3年目になります。授粉作業が不要で、以前と比べて大幅に作業負担を軽減できるようになりました。

「授粉作業はかなりの労力を必要としていた。その分を他の作業に回せるため、結果として品質が向上した。例えばマルチを隙間なく丁寧に敷くことで、ハウス内の湿度を抑えられ、病害虫の発生も抑制できた」と言います。

加藤さんはトマト栽培の経験を経て、営農アドバイザーからの助言で、より収量が安定するナスの生産に切り替えました。

「ナスは素直な作物。状態をよく観察して、肥料成分を調整すれば形が整い、茎も強くなる。試行錯誤や挑戦が結果につながるの、やりがいがある」と話します。

収量や大ききの向上へ

単為結果品種は、通常の授粉を必要とする品種と比べて食味、収量が劣ると言われ

ナス

函南町では、県内で数少ないハウス促成栽培によりナスを生産しています。平地で穏やかな気候が栽培に適し、生産者による徹底した品質管理と選果で高品質なナスを出荷しています。

つやとハリのある肌、肉厚な実が特長で、ジューシーな甘みをもち、どんな料理にも合う万能野菜です。



営農アドバイザーと品質を確認する加藤さん

営農アドバイザーから

三島函南営農経済センター 地区営農販売課

ふじもり りょうた
藤森 亮太

加藤さんは向上心が旺盛で、新しい取り組みを積極的に取り入れています。

三島函南地区でハウス促成栽培するナスは、10月から翌年6月まで出荷しています。生産者は土づくりや選果にこだわり、高品質化を徹底。近年は授粉用のハチやホルモン処理のいらぬ単為結果品種を導入し、効率化と低コスト化で農業所得の向上に努めています。

